

## ① コロッケの「あおいくま」

令和6年9月26日 白子隆志

皆さん、ものまねの「コロッケ」はご存じですか？おそらく半分以上の方々が知っている有名タレントですよ。では、「母さんのあおいくま」はご存じでしょうか？

コロッケが出版した「母さんのあおいくま」という本がありまして、熊本出身の彼の伝記とでもいうのでしょうか。近年はクマモンが有名なので余計に「あおいくま」がマッチするのかもしれませんが。コロッケは僕と同じ昭和世代です。家は母子家庭で貧しくても、誠実に明るく生きるようにお母さんに育てられていたようです。ものまねの才能を開花し熊本から東京に出てくるにあたって、お母さんから教えられた「あ」「お」「い」「く」「ま」を実践されたとあります。では紹介します。

「あ」:あせるな

何か事をするときに、準備なく始めるとパニックになります。これは災害も同じである程度シミュレーションしておけばパニックにならずに行動できます。僕は外科医で様々な手術をしてきましたが、手術中に判断に迷ったり、つらいなと思ったときに「焦るな」と言い聞かせてやってきました。困ったときには、難しいことはありませんが、焦らずゆっくり考えていくことで、困難を乗り越えることができました。

「お」:おこるな

人間自分の思うようにならないとつい怒ってしまいます。往々にしてこれは自分に対してではなく、相手に向けられることが多いようです。起こるというのは人間の感情としては、自分の命を守るための「生まれ持った」感情だと思いますが、日常の業務の中で「怒る」というのはあまり褒められたものではありません。「自分の失敗」を処理できずに周囲の人たちに当たっているように感じます。「怒る」という行為は、自分の体内ではアドレナリンが分泌されて元気になりますが、他の人たちのいらだちを煽ることになりかねません。怒って感情がコントロールできなければ、自分のみならずチームの仕事まで効率が下がってしまうでしょう。近年では「・・・ハラメント」になると思います。

「い」:いばるな

これも人間の生きるための習性でしょうか？どうしても集団の中で「優位」になろうとして威張ってしまうことがあります。お母さんが言い聞かせたのは、有名になっても決して「威張らず」謙虚な姿勢でいなさいということだと思います。病院の中では、医師、看護師など様々な部署の中でまだまだ「威張る」ことが見受けられるようです。素晴らしいチームリーダーとは、「威張らずに人を動かすことができる」

人ではないでしょうか。

世の中で「いじめ」は悪いと知っていても、絶対になくならないし、世界各地の紛争戦争も悲しいことに無くなりません。

「く」くさるな(くじけるな)

人は弱いものです。順風満帆の時には全く意識しないのですが、ひとたび逆風にさらされたときにはやはりくじけるものです。失敗のない「成功者」はあまりないと思います。成功者となるか、そのまま失敗者となるのかの違いは…やはり腐らないことではないでしょうか？一時的に落ち込んでも、失敗を糧に次に向かっていく人が必ず報われると思っています。この「くさるな」には、他人と比べて「貧しい」とか「運がない」とか、他人をうらやむようなことはしないということもあるのではないかと考えています。

「ま」まけるな

これは「くさるな」にも通じていますが、決して諦めないことで、次に向けて進む道が開けてくると思います。辛いこともいつかは良いことになって帰ってくると信じて、進むことが大事だと思います。

僕は、この「あおいくま」を仕事でもプライベートでも「つらいな」と思ったときに自分の心の中で言い聞かせています。不思議なことに、手術中や患者さんのことで大ピンチになった時でも「あおいくま」のおかげでこれまで何度も乗り越えてくることができました。

ぜひ、皆さんも魔法の「あおいくま」を試してみてください。

